



▲練習する「初代」三州瓦音頭踊る会の皆さん。瓦づくりを表した歌詞の、荷台を押し出す動作、天秤棒で瓦をかつぐようすなどを取り入れた動きだと聞くと納得する。

なつかしのわがまちソングをもう一度



▲多くの人で賑わう「橋まつり」の写真
昭和36年版高浜町勢要覧より



▲実質「2代目」であるレコード
かわら美術館で開催中の「たかはまのたからもの展」でも展示されている。※～10/30（日）



◀今年8月の港小学校地域交流会では、子どもたちも踊りを教わり、楽しそう。歌詞の意味が伝わったかな？

初代「三州瓦音頭」

かつて衣浦大橋のたもとで行われていたという「橋まつり」。まちの皆さんは青年団を中心に「三州瓦音頭」を踊って夏の夜を楽しんだという。

昭和55年にレコードになった音源が今は盆踊りで使われているが、実はそれ以前の「初代」がある。歌詞も少し異なり振付も違う。「昔の振付を知っている人がいないだろうか」という地域の方の声に応え、今年5月に「初代三州瓦音頭 踊る会」が発足した。同会の沢田時子さん(二池町)は「今、動かないと完全に消えてしまう気がして、それは淋しいなど。周囲に、とぎれとぎれに覚えている方が何人かいて、みんなの記憶を寄せ集めたらできるかもしれないと思いました。作曲者の方の娘さんのほか、いろいろな方に声をかけ、協力してもらって練習をスタートしたんです。」という。

口ずさみたくなるようなこの曲を作曲したのは、故・三陽公一さん(青木町)。旧道坂の音楽教室の先生といった方がわかりやすいだろうか。踊る会の中心的存在でもある娘の三陽仁美さん(青木町)は「父は戦時中、音楽での慰問に行った経験もある人でした。高浜市に住んでからは、高浜中学校の校歌や高浜消防隊の歌なども作曲しました。また、かつてあった大山公園の桜祭りでは、ステージにお弟子さんたちと出演していたのを覚えています。」と思い出を語る。

現在13人のメンバーは、まちの自慢のあれこれが歌詞に登場する「ねんど節」(初代のB面)や「ふるさと囃子」(2代目のB面)とあわせて、市全域に広めたいと意欲的だ。わがまちの文化も垣間見えるこれらの曲を思い出した方、ぜひ踊りの輪に加わってほしい。

“撮っておき” の たかはま 【第68回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

広報たかはま
編集・発行／高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。